

京極論文Introduction to the theories of social marketに対するコメント

慶応義塾大学経済学部教授 駒村康平

1. 感想と位置づけ

- ・ティトマス、ギルバートの社会市場の違いを整理し、さらに準市場も含めた、新しい社会市場の概念を整理しようとした試み。
- ・近代経済学の市場（価格メカニズムを通じた需給一致）のではなく、社会システム論（社会制度）としての社会市場
- ・京極論文の社会市場は、対人社会サービスにおける市場メカニズムの導入（準市場論）よりも広い概念。（ギルバートの社会市場との違いを整理＝家族・友人間の取引ははずす）（狭義の社会保障制度にのならず、むしろ広義の社会保障＋税制＋個人向け・零細向けの市場の失敗補完するシステム＋社会的資本）
- ・社会市場論の先に、より政策志向の新しい社会保障（広義）体系の整理があるはず？。
- ・社会システム像（社会市場と経済市場）図4→政策体系図6（システム分類：準市場、社会保険、減税、社会的資本、その他）→政策手段（図7、図8）
- ・機能別分類は図10
- ・特徴は、現行の社会保障制度のように制度別分類ではない。

2. 質問

議論1

京極論文では、国民（利用者、消費者、納税者、被保険者で強調される特性はそれぞれことなるが）と情報をどのように捉えているのか？

1. 消費者主権

- ・個人の位置づけ？

受動としての個人か？能動としての個人か？準市場における受給者像について？消費者主権についてどのように考えるか？

2. ニードについて

・Needs、ソーシャルデマンドとは、（潜在的な社会ニーズが顕在化した）社会需要
ニーズとは：必要なのか、誰が判断するのか、ニーズの多様化はあるのか？ニーズとは経済学的には何なのか？

需要は、価格、所得、選好から決定される概念

ニーズとは、価格にも、所得にも、選好にも関係なく、専門家・供給者が必要と判断したものか？

- ・需要（消費者主権）とニーズの一致をどのように果たすのか？
- ・ニーズの多様化というものはあるのか？

3. 情報について

・経済学は、質の悪いサービスは市場から淘汰されるとしている。いずれ情報が伝わる。(淘汰されるまでの時間、質の把握)

・京極理論における情報は経済学の情報と同じか？

対人社会サービスの専門性とは？情報の不完全性というもので捉えきれぬのか、それ以上に特殊なものなのか、消費者に理解できるものなのか（医療、教育、保育、介護、介助）

・すりあわせる仕組み：the provision of information. 情報伝達システム（ソーシャルワーク、マネジメント）からみると、異なるのではないか？

・情報提供については、ソーシャルワーク、ケアマネジメントを含む。静的情報・客観情報ではない？（動的な情報。財の価値は利用者との組み合わせによって異なってくる。その異なり方についての情報。利用者本人が認識していないような専門性の高い情報。客観化が困難。対人サービスは利用者と提供者の組み合わせがことなれば、価値が変わってくる？）

・自分がどのようなサービスが必要かという情報？（医療、対人専門サービス）

・オリジナルの情報論が必要ではないか？

議論2. 社会市場と経済市場の関係

1. 社会市場と経済市場の関係について

・経済市場と社会市場の関係はどうなるのか？「相互作用」「相互依存関係」は良くわかるが、緊張・対立、破壊的關係もあるのではないか？混ざりあってくる分野。

・準市場メカニズムにおいて、経済市場との連携性が高い分野（労働市場、資本市場）からの制約をどう処理するのか。例としての介護労働市場における賃金と介護保険の介護報酬の関係

・社会的規制が経済市場の行動と非整合性の場合はどうなるか。

・ティトマスの社会市場（京極論文の社会市場よりも狭い概念）と経済市場の重なるところで起きた悲劇。逆選択の発生。P 27

事例としての血液事業：売血市場の失敗：ボランティア（献血）と売血。献血は利他的動機、売血は金銭的動機。情報の不完全性と売血者（血液供給に対する価格弾力性が高い）と献血者の血液（血液供給について金銭的動機ではない）の質の違い。動機の違いが血液の質の違いを反映していた。血液を売る人＝利他的ではなく、所得が低い人＝生活習慣からくる血液の質の劣化（ウィルスの混入。完全に質のモニターができない。情報の不完全性。一種の逆選択が発生）。

限界：血液市場では、献血の方が優位になる。仮に売血市場の失敗がなければ、長期的にはすべてが売血となり、献血は駆逐されるか？実際には情報の問題あり。

献血の限界：社会的な必要量と対応するだけの献血が供給される保障はない。ボランティ

アに依存するため不安定なシステム。社会参加、社会システムに対する貢献、利他性の刺激が不可欠。

献血における逆選択：検査目的（利己的動機の献血）は質の悪い血液のみを集める。

駒村（1997）「ボランティアと市場，政府の関係—血液事業を例にして」（社会保障研究33巻第2号）

・対人社会サービスの特性は何か：同じ提供者でも利用者との人間関係のなかで、情報交換、コミュニケーション、協力関係によって、対人社会サービスの質や価値が異なってくる。この点は、対人サービス全体に共通だが、医療・介護・教育・保育・介助などでは、その程度が著しいのか？

・経済取引と贈与交換の違い。

経済取引は誰が提供しようが意味がない（価値に差がない）。

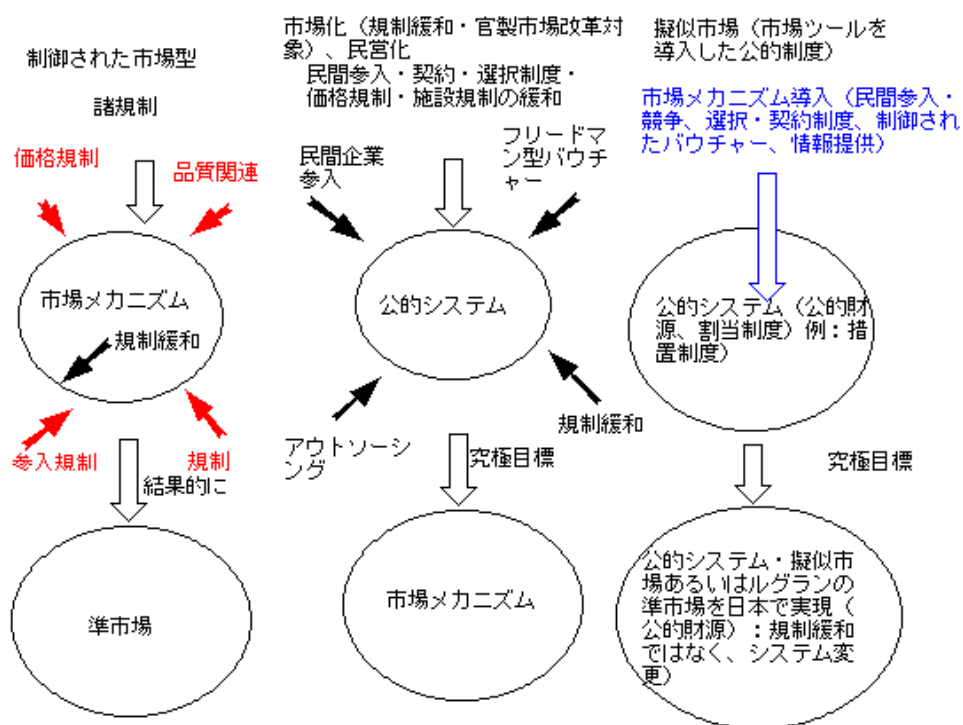
贈与交換は、提供動機・自体、誰と誰の交換自体（コミュニケーション）が意味を持ってくる。（人と人の中から生まれる価値）→加藤敏春氏（地域通貨）

2. 準市場論

・社会市場と経済市場の二分論を乗り越えて。オーバーラップ論＝混じり合った部分(incorporated market)としての混合市場

・準市場論の捉え方が異なるのは事実。

図参照



・京極論文の指摘する狭い「ルグランの準市場」は、極めて具体的な制度設計、政策設計

に近い。概念を広げる作業よりも「ルグランの準市場」を掘り下げ、対人社会サービス別に、財の特性に合わせた分析、制度設計を行い具体的なインセンティブ設計が必要

(応用ミクロ、実験経済学、ゲーム論、実証的産業組織論)

- ・京極論文との問題意識の違い。
- ・京極論文は、準市場「論」に関心。別の準市場論（準社会市場論）
- ・社会学における準市場論？
- ・規制された市場なのか、競争メカニズム（市場要素）を導入した公的システムなのか
擬似か準か？

準市場：準＝次。市場に準じる市場か？

(参考 準公共財（じゅんこうきょうざい）とは、非競争性と非排除性のいずれか一方だけを持つ財をいう。)

擬似＝似て非なるもの。Quasi＝類似。市場機能を組み入れた公的システム

Pseudo Marketの訳ではない。

- ・社会福祉基礎構造改革をどのように位置づけているか？
- ・京極(2007)の指摘のように二重の立論を招いたのは事実。反改革派は、意図的に擬似市場・準市場を規制緩和・民営化の一環と喧伝したのでは？

3. その他。

1) 混合市場論。広義の交換関係。拠出給付の交換関係（社会保険）、では「拠出金」をどのようにみるのか？

2) 負の所得税に対する評価

負の所得税も比例税で財源を確保すれば結果として、個人の直面する予算制約はベーシックインカムと同じ。ベーシックインカムをどのように評価するか

3) バウチャーについて

- ・フリードマン型バウチャーは亜種

バウチャーと情報、ニーズの関係

「バウチャー」とは：専門家・公的主体により「必要なニーズ量」が保障されつつ、どの提供者から購入するかは利用者本人が決める（サービス提供者により提供内容に多様性がある場合（多様性がない場合にはバウチャーは必要ない）＋十分な供給者＋情報完全性（消費者主権）)

フリードマン型バウチャー：市場メカニズム（情報の完全性）

- ・制限付きバウチャー：準市場（公的に情報の不完全性を克服している状態のなか。介護も医療も一種のバウチャーである。医療・介護で、提供者を制限し質のばらつきをコントロールし、使用区分も制限している）
- ・社会貨幣という概念は興味深いが。

所得保障（現金給付＋減税（控除）＝社会貨幣 Social moneyも対象に。

敢えて区別しなくても、広義の所得給付でいいのではないか？